

## 共同礼拝（子どもの日・花の日）

2024年6月9日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 徑米

奏楽 大澤葉子

前 奏

招 詞 ルカによる福音書 10章21節

讃美歌 けさもわたしの（こどもさんびか4）

主の祈り

教会学校生徒によるさんび

「ちいさなごに」（讃美歌2編26）

聖 書 マタイによる福音書6章25～34節

（新10）

祈 り 牧師 姜 徑米

使徒信条

讃美歌 ことりたちは（こどもさんびか10）

説 教 「ののはなをみなさい」牧師 高橋和人

祈 り

献 金

讃美歌 おさげしましょう（幼児さんびか8）

頌 栄 542 よをこぞりて

（こどもさんびか16）

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

## 6月の祈り

教会が教会の頭であるキリストのもとに一つにまとめられるように。

キリストにおいて、真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、信じて、約束された聖霊で証印を押されたことを表すことができるように。

礼拝がまことに主をあがめるものとなるように。

信仰の継承がなされ、教会学校、幼稚園等教会に集う子どもたちに信仰の導きと祝福があるように。

震災の地の教会と人々を覚えて、戦争と紛争の地に平和がもたらされるように。

## 今日の祈り

全ての子どもたちが、愛されて成長し、家庭が守られ、健康に生き、平等に教育が受けられ、安心して生きることができるように。

教会に連なる子どもたちが、主の恵みによって信仰の養いを受けることができるように。

体調を崩している兄弟姉妹が守られるように。

「ののはなをみなさい」高橋和人

マタイによる福音書6章25～34節

主イエスは山に登って説教された。そこには何の隔てもなく、直接主イエスの顔を見、その声を聞くことができた。おとなも子どもも区別なく集まった。

エルサレムで大事な礼拝を守る神殿には区分があった。みんなが入れるところ、ユダ人だけ入れるところ、おとなの男が入れるところと壁で仕切られていた。しかし、一番奥に行っても、神に直接会うことは一人の特別な人だけであった。

主イエスは集まってきた群衆を見回して話された。主の方が人々を見て語られた。そこには、病気の人、心配なことがある人も、疲れた人も、寂しい人

も、悲しんでいる人、困ったことがたくさん抱える人も集まった。

そこで、主イエスはこの話をされた。誰でも特に心配なのは命のことと体のこと、命のことが心配になると心が占領される。食べるためのこと、何を食べたらいいか、考えたらきりが無い。それと、体のことも心配だ。元気でいられるか、病気にならないか心配になる。体のことだと、どんな服を着たらいいかも悩みになる。

主イエスははっきり「悩むな」と言われた。そして、空を飛んでいる鳥を示される。この鳥を父なる神は養ってくださる。われらの命も体も与えられたものだ。思い悩んでも寿命は伸ばすことができない。

次に野の花を示されて言われた。神はソロモンの栄華以上に装ってくださっている、なおさら私たちのことを想っておられると言われる。

しかし、心配事があると、こころも一杯になって、体も縮こまってしまう。命や体のことで思い悩むのは天の父なる神を知らないためだといわれる。逆に天の父は必要なものを良く知っておられるのだ。

主はわれらのまなざしを、自分のことから、空の鳥と足元の花に向けられた。その向こうにある天の父のまなざしに気づかせるためだ。

主イエスはまず第一に「神の国と神の義」を求めようと言われる。それらは主イエスがもたらしてくださったもの。神の国は主イエスのおられるところ、神の義は主イエスの言葉を聞くところにある。教会は主イエスに会い、その言葉を聞くことができる。それは、神の国につながる。そこだ。

主イエスがおられ、語り掛けてくださることが分かると、とても軽くなる。だから思い悩むなど言われるのを聞くのは何より大切なことになる。